

せかいをしるって おもしろい

氏 名：森 優美子

担当教科：全教科

時 間 数：6時間

学 校 名：松山市立伊台小学校

実践教科：学級活動・道徳・国語・総合的な学習の時間

対象学年：1年生、6年生、教職員

人 数：25名（1年3組）

【1】単元のテーマ・目標

ラオスや他国の文化、人物、またその人物がもつ願いを知るを通して、知ることの楽しさを体験し、他国からの視点で物事を考える態度を養う。また、様々なことを知ることで、やってみたい、行ってみたいという興味関心につなげたい。

【2】単元の評価規準例

(ア) 関心・意欲・態度	他国の文化やラオスに興味をもつことができる。 (学級活動、道徳、国語)
(イ) 思考・判断・表現	疑問を見つけ、予想して考えることができる。 (学級活動、道徳)
(ウ) 技能	他国の料理や遊び、考え方に触れ、似ているところや違うところを見つけることができる。(学級活動)
(エ) 知識・理解	ラオスや他国の文化、人物、願いについて知る。 (総合的な学習の時間)

【3】単元設定の理由

<児童観>

本学級の児童25名（男子11名、女子14名）は、4月に小学校に入学してから様々な経験をして、視野が広がりがつある1年生である。しかし「外国」や「日本」という概念はまだはっきりもっていない。学校生活においては、アイルランド人のALTの先生のおかげで、日本語以外の言葉に触れることができ、自分たちと違う国があるということ、世界にはいろいろな国があるということをし少し理解し始めた。日本と違うところがたくさんあるという認識はしているようである。

<教材観>

本単元では、「外国」の1つである「ラオス」を通して、子どもたちの「外国」への興味・関心を高めたい。さらに国際理解の第一歩として、まずはラオスと日本の違いを感じるところから「違うっておもしろい」「ラオスに行ってみよう」「ほかの国のことも知りたい」という気持ちをもたせたい。また、自分たちの生活と違うところだけでなく、似ているところにも着目させながら、ラオスと日本を考えていくようにする。

<指導観>

指導にあたって、児童がラオスのイメージをつかみやすいように、実物（地図、国旗、民族衣装、教科書など）や視聴覚教材を活用する。ラオスと日本との違いばかりに目を向けるのではなく、似ているところも見付けられるように、日本のことがわかるものも準備したい。そして、文化と伝統を尊重する態度を養いたい。

【4】展開計画（全6時間）

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1	「教師海外研修報告」 対象：教職員 ねらい：教師海外研修の目的や研修内容、ラオスで体験したことを紹介することを通して、教師海外研修やラオスについて理解を深めることができる。	(1) ラオスの衣食住について、日本との相違点や類似点について知る。 (2) ラオスの抱える問題や世界では「SDGs」に取り組んでいることを知らせる。 (3) 谷川俊太郎「そのこ」の詩を聞き、私たちにできることを考える。	・実物 ・パワーポイント ・SDGsのプリント ・「そのこ」動画
2	「世界の国々とつながろう」 対象：6年生 教科：総合的な学習の時間 ねらい：外国には自分たちと違う暮らしをしていることを知ったり、その国の抱える問題点やそのために働いている人の生き方を考えたりする。	(1) ラオスの衣食住について、日本との相違点や類似点について知る。 (2) カードを使って、ラオスについてのクイズに答える。 (3) 海外協力隊の隊員と水道局勤務の日本人のインタビュー動画を見る。 (4) 授業の感想交流を行う。	・実物 ・パワーポイント ・クイズカード ・ふりかえりカード
3	「せかいのあいさつ」 対象：1年生学年全員 教科：道徳 ねらい：身近な行為である挨拶を通して、様々な人とコミュニケーションを取ろうとすることができるようになる。	(1) 日常の挨拶をする。 (2) 道徳の教科書「せかいのあいさつ」より、世界の様々な挨拶を聞く。 (3) ALTのブルース先生の紹介を英語で聞く。 (4) 外国の挨拶や話を聞いて、感想交流を行う。	・あいさつの地図 ・アイルランドのスライド ・ふりかえりカード
4 本時	「せかいをしるっておもしろい」 対象：1年3組 教科：学級活動 ねらい：ラオスの生活文化などを知り、外国への興味関心を育てる。	(1) 前時の道徳の時間の学習を思い出す。 (2) ラオスのスライドを見て、相違点や類似点を見付ける。 (3) ラオスクイズにグループで答える。 (4) 答え合わせをする。 (5) 学習の振り返りをする。	・実物 ・スライド【資料1】 ・絵本 「せかいのあいさつ」 ・クイズ ・ふりかえりカード
5	「せかいをしるっておもしろい」 対象：1年1・2組 教科：学級活動 ねらい：ラオスの生活文化などを知り、外国への興味関心を育てる。	(1) 前時の道徳の時間の学習を思い出す。 (2) ラオスのスライドを見て、相違点や類似点を見付ける。 (3) ラオスクイズにグループで答える。 (4) 答え合わせをする。 (5) 学習の振り返りをする。	・実物 ・パワーポイント ・スライド ・絵本 「せかいのあいさつ」 ・ふりかえりカード
6	「のりもののことをしらせよう」 対象：1年3組 教科：国語 ねらい：乗り物について、説明の文章を書く。	(1) 身の回りの乗り物について知る。 (2) ラオスの「トゥクトゥク」を紹介し、「やくわり」と「つくり」を知る。 (3) 外国にある乗り物に関心をもつ。	・写真 ・パワーポイント

【5】 本時の展開

過程時間	学習活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
導入 (5分)	1. 前時で学習した「せかいのあいさつ」を思い出す。	T: 世界にはどんなあいさつがあったか覚えていますか？ ・道徳「せかいのあいさつ」の資料や「あいさつの地図」、絵本「せかいのあいさつ」の抜粋を使って思い出せるようにする。	・道徳教科書 ・あいさつの地図 ・絵本 「せかいのあいさつ」
展開 (25分)	2. ラオスの紹介映像を見る。	T: ラオスの「え～？」を見つけてください。 ・日本との違いだけでなく、似ているところにも目が向くように声を掛ける。	・パワーポイント ・国旗
	3. ラオスに関するクイズをする。 (実物を入れた袋を6つの班に1つずつ渡す)	T: ラオスについてもっと知ってほしいので、班で協力してクイズに答えてください。 ・グループで話し合いながら答えを考えられるようにする。 ・実物を用意する。	・実物6つ ・ホワイトボード
まとめ (15分)	4. クイズの答え合わせをする。	T: 答え合わせをしてみましょう。 ・答えの○×だけに目が向かないように、ラオスの紹介にも注目させる。	・パワーポイント
	5. 今日のまとめをする。	T: 今日の学習を通して感想を言いましょう。 ・教員がラオスに行って感じたことを聞くことを通して、外国に興味関心がもてるようにする。 ・児童の思いを共有できるようにする。	・ワークシート

【授業実践の様子】



絵本「世界のあいさつ」を聞いている様子



ラオスの紹介映像を見ている様子



ラオスクイズに取り組んでいる様子



クイズの答え合わせをしている様子

【単元を通し変容した生徒の態度や学習意欲】

(1年生)

- ・世界地図を見て、「日本はどこ？」と聞く児童が増え、外国に興味をもつようになった。
- ・日本とラオスの国旗が似ていることから、外国の国旗に興味をもつ児童がおり、イラストを描いたり図書室で本を借りたりするようになった。

(6年生の感想より)

- ・「世界のことをあまり知らなかったけれど、いろいろな国をもっと知りたくなった」
- ・「世界には、裕福な国と貧しい国があるけれど、お互いが助け合うことが大切だと分かった」
- ・「ラオスの人々のために働いている日本人がいることがすごいと思った。ぼくも誰かのために動ける人になりたい」
- ・「ラオスの人は幸せそうに見える。自分の国に誇りをもって生きていきたいと思った」
- ・「将来、世界の人役に立つ仕事につきたいと思った」

【途上国・異文化への意識の変容】

<授業前>

1年生に「先生は夏休みに外国に行ってきました。どこの国でしょう」と聞くと、数か国は答えられたが、「ラオス」という回答はなかった。ラオスを知っている児童は一人もいなかった。世界地図を見せてラオスの位置を示しても、自分が住んでいる日本でさえ分からない児童もたくさんいた。

<授業後>

世界にはたくさんの国があり、「こんにちは」という挨拶がそれぞれの国の言葉で言われていることを知った児童たちは、それに興味をもち、「もっと知りたい」という思いをもつようになった。写真や動画でラオスの文化や生活の様子を紹介したことで、日本と異なるところや似ているところがあることを知った。遠い外国がとても身近なものになり、「大人になったら外国に行ってみよう」という児童が増えた。

【8】自己評価

1. 苦労した点

伝えたいことがたくさんあり、何をどうやって伝えたらよいか悩んだ。また、自分がラオスで体験したことの中から、何を選択して授業に取り入れていくのがよいか迷った。ラオスのことばかりに偏るのではなく、「外国の一つ」という意識で伝えたいと考えた。また、日本との「違い」ばかりに目が向かないようにした。

2. 改善点

事前アンケート等を準備して、児童の意識の変容がより見えるようにしておくよかったと感じた。また、ラオスを伝えることに時間を取りすぎてしまったので、クイズの内容や解説を精選して、振り返りに時間がかけられるようにしたい。

教師海外研修の前後で、開発教育の手法をいくつか学んだが、実際に低学年に取り入れることが難しかった。低学年用にアレンジしてみる必要を感じた。

3. 成果が出た点

私自身がこの研修で学んだことが多すぎて、国際理解教育の最初の一歩として児童に何を感じてほしいのか、整理するのにとても時間がかかった。しかし国際理解教育に限らず、児童自身が「知ることは楽しい」「もっと知りたい」と感じることは、低学年の児童にとって大切なことではないかと考えた。その結果、「おもしろかった」「楽しかった」「ラオスに行ってみよう」「ラオスの大切なものが分かった」と感じた児童がいた。児童に

とってラオスが「知らなかった国」から「行ってみたい国」に変わったことは大きな成果だと考える。

4. 備考

今年度、教師海外研修に参加することができて非常に有意義な時間を過ごすことができた。国際理解や国際協力の興味がありながらも、日々の業務に追われる毎日でなかなか始めの一步が踏み出せずにいた。そんな中での今回の研修は、「チャンス」と思わせてくれたものだった。十日間という短い体験ではあったが、私にとっては一生忘れられない十日間である。学んだことや感じたことがたくさんあり、伝えたいことがたくさんある。この中から少しでも児童たちに伝え、そして自分自身にも生かせる教員でありたい。

【参考資料】

<資料>

- ・地図「世界の国からこんにちは」 JICA四国

<書籍>

- ・教科書「小学どうとく」
- ・絵本「せかいのあいさつ」 作：長新太（福音館書店）
- ・絵本「はがぬけたらどうするの？せかいのこどもたちのはなし」作：セルビー・ピーラー（フレーベル館）
- ・絵本「ポリぶくろ1まいすてた」 作：ミランダ・ポール（さ・え・ら書房）

<Webサイト>

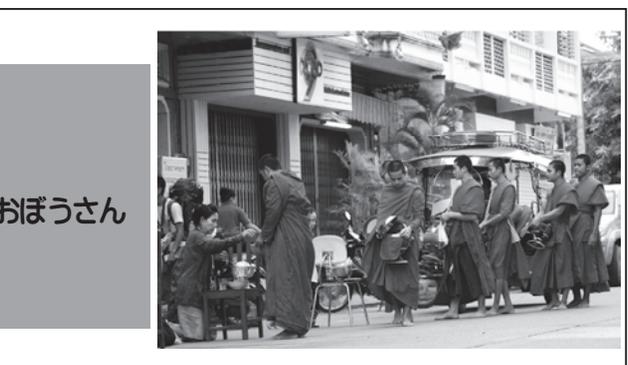
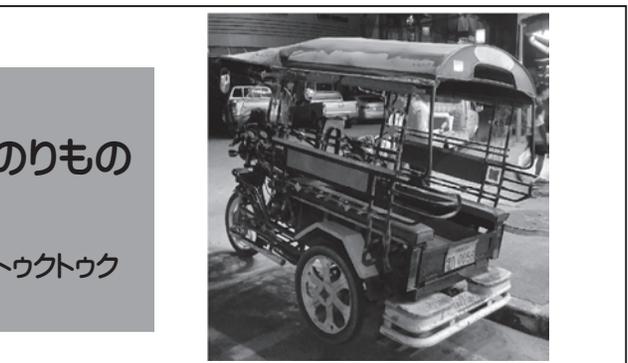
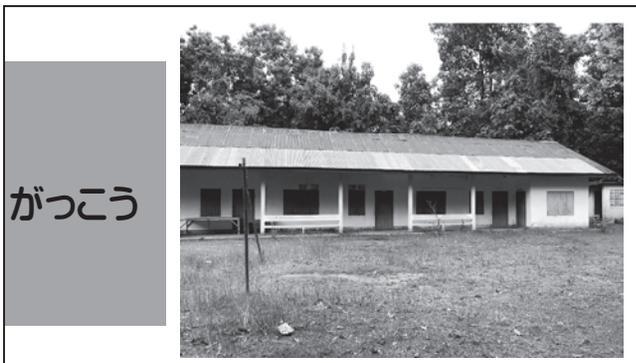
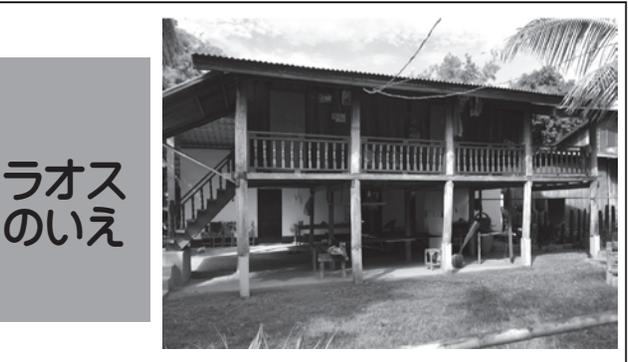
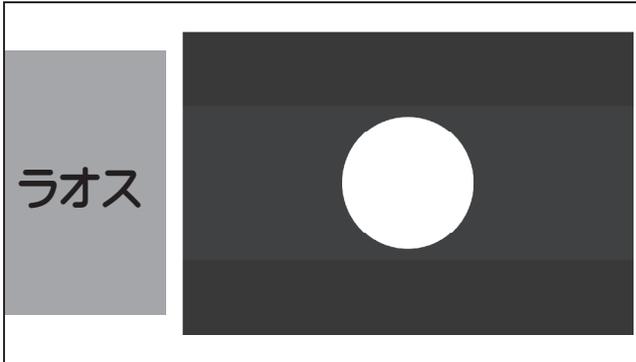
- ・谷川俊太郎「そのこ」



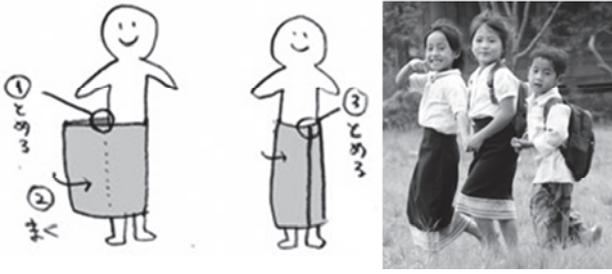
なつやすみにがいこくにいきました。どこでしょう？

ヒント

「こんにちは」を「サバイデー」というくにです。



もんだい① こたえシン



もんだい② こたえ もちごめ カオニャオ



もんだい③ こたえ

さんすう



もんだい④ こたえ

セパタクローで
つかうボール



もんだい⑤ こたえ

三びきのこぶた

もんだい⑥ こたえ

かや
かにさされ
ないように
する



まとめ

- ① ラオスには日本とおなじところやちがうところがある。
- ② ラオスの人はあかるい。
- ③ せかいにはいろいろなくにがある。

ラオスでであったこどもたち



おわり

コープチャイ
(ありがとう)

